

人権教育指導者研修会

研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

宮城県教育庁
宮城県教育庁生涯学習課
TEL 022-221-3654

実施年月日 実績等	実施年月日：県北会場＝平成16年9月28日(火) 県南会場＝平成16年10月12日(火) 仙台会場＝平成16年10月26日(火)の3日間 参加人数：のべ99人
主催(共催)	主催：宮城県教育委員会／共催：矢本町教育委員会、岩沼市教育委員会
開催場所	矢本町コミュニティセンター、岩沼市民会館、宮城県行政庁舎
対象	県内の社会教育関係者、教育関係職員、一般県民
人権課題	子ども、女性、障害者、高齢者

事業の目的

全ての人々の人権が真に尊重される社会の実現に向けて、広く人々の人権問題に対する理解と認識を深め、人権に関わる諸問題の解決に資することを目的に、宮城県教育委員会では平成9年度から人権教育指導者研修会を実施している。

毎回、社会教育における人権に関する学習活動の推進に必要な指導者の育成と、その指導力強化を図るプログラムを用意しているが、その具体的な内容は県の教育委員会や人権擁護委員会、学校関係者、福祉団体、NPOなどで構成される「人権教育企画推進委員会」が決定する。企画や運営も同委員会が担当している。平成16年度は9月と10月上旬に県北は矢本町、県南は岩沼市で第1回研修会を行い、10月下旬に仙台市でまとめとなるワークショップを開いた。

事業概要

矢本町と岩沼市で行われた第1回研修会「人権を考えるフォーラム」のテーマは「気づき」。具体的な人権問題に触れることにより、人権について考えるきっかけを作ってもらうことを目的にした。当日は午前中にパネルディスカッションを行い、3

人のパネリストがそれぞれの専門領域から、女性、子ども、障害者、高齢者などの人権課題をわかりやすく説明していった。パネルディスカッションのコーディネーターとパネリストは以下の通り。

●コーディネーター

○三條秀夫さん(東北学院大学法学部助教授、宮城県人権教育企画推進委員会委員長)

●パネリスト

○斎藤イチ子さん(仙台女性への暴力センター(ハーティ仙台)世話人でフェミニスト・カウンセリングルーム in 仙台カウンセラー)

○小林純子さん(チャイルドライン in MIYAGI代表理事・MIYAGI子どもネットワーク代表、特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク代表理事、宮城県人権教育企画推進委員会委員)

○鈴木守幸さん(宮城福祉オンブズネット「エール」副代表事務局、宮城県社会福祉会理事、宮城県社会福祉会権利擁護センター「ぱあとなあ」宮城運営委員長)

午後からはパネラーの3人と参加者が一緒になって意見交換する「車座討論会」が行われた。なお、2会場ともに同じプログラムで運営され、同一のコーディネーター・パネリストに

登場していただいた。

仙台市で行われた第2回の研修会は「人権尊重社会を目指して ワークショップ『気づきから行動へ』」と題して、午前・午後ともにワークショップを中心とした研修を行い、最後に第1回にも登場した三條さんが研修会のまとめの意見を述べた。

第2回のテーマは「行動」と「発信」。ワークショップで人権に関する理解を深めるとともに、人権教育の実践に触れることで「行動」の視点を身につけ、三條さんのまとめを通して今後の啓発活動のあり方を探ることで「発信」の仕方を覚えていくという流れを取った。なお、ワークショップの講師(ファシリテーター)は、ERIC国際理解教育センター事務局長の角田尚子さんをお願いした。

※ワークショップのプログラムは以下の通り

〈セッションⅠ〉

「気づきから行動へ」流れのあるプログラム

1. ミニレクチャー
2. 教室の中の世界体験
3. 傾聴
4. 話し合いのルール作り
5. 参加者はどんな人？
6. 三段論法の落とし穴

〈セッションⅡ〉

「参加の推進～課題は何か？」

1. 多数派・少数派体験ゲーム
2. 「遅れてきた定着民」
3. 日本社会の○△□
4. 課題と手だて

連携状況

第1回は会場となった2つの自治体の教育委員会と連携して開催した。第2回はワークショップを行った角田さんが所属するERIC国際理解教育センターと協議しながら当日の企画を決めていった。仙台市法務局や宮城県人権擁護委員会には声かけなどで参加者を募ってもらった。

特色・工夫した点

○参加者の積極的な参加を促すため、第1回の午前のパネルディスカッション終了後、受付時に配布した質問用紙を回収。昼食時にパネラー(講師)の方々にそれらを見ていただき、午後の車座討論会でその質問事項に答える形で議論を進めた。

そのおかげで意見交換が深まり、参加者からも好評を博した。

○この研修会は従来、県庁所在地である仙台市で行われていたため、他地区在住の社会教育関係者が参加しにくいという短所があった。そこで、平成15年度からは県北・県南に向いて開催することになり、平成16年度も同様の形を踏襲した。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

研修会終了後のアンケートには「人権を難しく捉えていたが、身近な問題でありとても大切なことであることに気付いた」「ワークショップは自分たちが体験しながらの進め方だったので、納得のいく形で自分の中で消化できた」「参加者には教育関係者が多かったが、一般の人にもぜひ聞いてもらいたい内容だった」などの回答が寄せられた。

反省点・今後の課題

参加されたほとんどの方からは毎回大変好評を得ているが、残念ながら今年度は参加者数が過去最低であった。そこで、参加者を増やすために平成17年度は、宮城県PTA連合会との連携により県内2ヶ所で「人権を考えるフォーラム」を開催し、のべ360人の参加があった。



当日配布資料(左：県北会場、中央：県南会場、右：仙台会場)